

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 30 日現在

機関番号：22401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2014

課題番号：23510351

研究課題名(和文) 看護職の人間の性に対する認識を高める教育支援プログラムの開発と運用に関する研究

研究課題名(英文) Study to development and use of the education support program to increase nurses' recognition for the human sexuality

研究代表者

兼宗 美幸 (KANEMUNE, Miyuki)

埼玉県立大学・保健医療福祉学部・准教授

研究者番号：50214490

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：この研究の目的は、看護師の性に対する認識を高め、人間の性に関する倫理的問題への認識を高める学習プログラムの開発と運用である。研究の結果、認識を高めるにはまず自分の性意識に気づく事が重要である。その上で患者の性的言動に対し倫理的な側面で語り合う事が有効とわかった。具体的には、事例をもとに意見感情を語り合う。次に事例に対しアドバイザーの助言を借りて倫理的問題をディスカッションする方法である。患者の性的言動について語り合う方法と5つの事例とその解説を冊子にまとめた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to development and use of a program that promotes deeper awareness among nurses of ethical issues related human sexuality by improving their understanding of sexuality. The results of the research indicate that in order to promote nurses' awareness of these ethical issues, it is important to first increase awareness of their own gender identity. Then, the proposed next step is to have a discussion on patients' sexual behavior from an ethical point of view. The program consists of two steps of discussion. First, nurses will participate in an open-ended discussion about a case study, freely expressing their opinions and emotional reactions. Then, they will proceed to a structured discussion facilitated by an advisor on identified ethical issues. A booklet was completed that included two contents, one is methods to proceed to a structured discussion facilitated by an advisor on identified ethical issues and the other is fifth case studies and interpretations.

研究分野：看護学

キーワード：セクシュアリティ ジェンダー 看護職 教育支援プログラム 性の認識

1. 研究開始当初の背景

看護の対象は人間とその生活であるにもかかわらず、過去の国内外の看護理論では「人間の性」(ジェンダー、セックス、セクシュアリティ)の視点は顕在化していなかった。

日本の看護基礎教育課程において「人間の性」に関する内容が公的に導入されたのは1990年のカリキュラム改訂以降と歴史は浅く、まだ体系化されているとはいえない。臨床現場で働く多くの看護師は「人間の性」について学ぶ機会が全くないか、または十分でないままに看護援助を実践している。我々の先行研究(課題番号 17510232)では看護実践の意思決定に関する臨床看護師への調査では、「患者の性生活について決して尋ねたりしない」の回答は40歳代以上で5割を超え、全体でも4割に達していた。

一方、人間の性と生殖に関わる健康と権利について国際的な取り組みが進められている。我が国では社会や個人のあり方・価値観が急激に変化する中で、保健医療の現場でも性と生殖に関わる問題への取り組みが試行されている。高齢者、しょうがい者(児)、泌尿器疾患患者、婦人科疾患患者、脳血管障害患者、糖尿病患者、がん患者、心疾患患者、妊産婦、認知症高齢者など様々な事例があり、性に関わる援助の対象者は特別な存在ではないことがわかる。しかし、これら看護援助の内容の吟味や有効性の検証は緒についたばかりである。

我々の先行研究(課題番号 17510232)では、母への育児指導、脳血管疾患患者の性的言動への対応、在宅療養患者の家族支援、患者の言動に悩む新人看護師の指導、性的問題の臨床経験に関して、特に若い世代に患者中心の観点といえない回答もあった。患者の性に関わる看護援助は、患者の心身の健康および権利の擁護の観点から内容や有効性を検討すべきだといえよう。

看護師の患者の性に対する受容の寛容性は、教育レベルや性に関するケアの必要性の認識の経験、助産師資格と関連している、とされている。性に関わる問題の倫理的な視点での分析は、性に関するケアの認識を高めると考えられる。また、未婚の女性看護師が性に関わる問題に遭遇した時、他者からの精神的サポートが得られた場合には「患者の性の受容」「専門職として対応」に移るといえる。

我々の先行研究(課題番号 20510250)では、患者の性に関わる倫理的問題への対応能力を持つ看護職による支援や、具体的な患者の性にかかわる倫理的問題を客観的に分析することを促す教材によって、看護職の意識に変化がみられた。しかし、このプログラムに対しては、内容や方法、評価に関する課題が明らかになった。

2. 研究の目的

本研究は、患者の尊厳を尊重した援助を実践する看護職の継続教育の方策について、特に患者の性に焦点をあてて、ジェンダーやセクシュアリティなど「人間の性」の認識、「患者の性」に対する倫理的問題への対応および看護師のキャリアの視点から作成した看護職の「人間の性」に対する認識を高める教育支援プログラム(試行)を実践・検討し、実効性のある継続教育プログラムとして開発することを目的としている。

3. 研究の方法

(1) 試行版教育支援プログラムの作成
看護職の「人間の性」に対する認識を高める教育支援プログラム(試行)を作成する。

(2) 試行版教育支援プログラムに参加した看護職の意見を収集する。

期間

平成 23 年 10 月から 24 年 2 月

場所

埼玉県立大学 演習室

対象

複数の保健医療福祉施設の協力を得て、研究に対する理解と同意を得られた男女の中堅または新人看護師

方法

事前に自記式質問紙調査を行い、参加者の背景や人数を調整した。

プログラムの参加後に自記式質問紙調査、事後にグループインタビューを実施した。

プログラム内のディスカッションやインタビューは了解を取って録音した。

内容

・事前・事後の質問紙：キャリア形成、「人間の性」(ジェンダー、セクシュアリティ)の知識・意識、患者の性に関する倫理的問題への分析や対応、性に関わる倫理的問題の経験

・グループインタビュー：患者の性に関する倫理的問題への意見や対応、支援プログラム参加による感想(専門職性と性に関する倫理的問題、患者の尊厳の尊重と性に関する自立への意見、個人および看護職としてのキャリアへの影響など)

分析方法

データに応じて量的または質的な手法を用いて行った。

倫理的配慮

個人情報保護と自由意思の尊重、研究データの保管と廃棄、研究成果の公開予定など口頭と書面で説明し、対象者の主体的な理解と協力が得られた場合に調査を実施する。

施設への打診および調査対象者への説明および調査中は、人権の保護に努め調査の同意が得られない場合でも不利益をこうむら

ないこと、調査の中断の自由や個人情報保護を遵守し、データは研究以外使用しないこと、研究終了時はデータの消去を行うことを書面および口頭で説明し、署名によって意思を確認する。所属大学の倫理審査委員会での審議を終え承認を得た後に研究を実施する。

(3) 試行版プログラムの改善

上記(2)をもとに看護職の「人間の性」に対する認識を高める教育支援プログラムを修正する。特に次の視点に着目して検討を行う(専門職性、患者の尊厳の尊重、性に関する自立、患者の性に関する倫理的問題への分析や対応、個人および看護職としてのキャリアなど)。

(4) 改善した教育支援プログラムに参加した看護職の意見を収集する。

保健医療福祉施設の協力を得て可能な限り継続して、(2)のと同様に実践した。

参加者のうち特にファシリテータに着目してデータを収集する。

(5) 教育支援プログラムの研修テキストを完成する。

評価データからプログラムを検討し、研修テキストを完成させる。

4. 研究成果

(1) 看護職の「人間の性」に対する認識を高める教育支援プログラムの実践による評価

参加者の視点から

「人間の性に対する認識を高める教育支援プログラム」試行版に参加した臨床現場に勤務する看護職から評価データを収集した。臨床看護師のべ30名(女性23名、男性7名)の参加が得られた。年齢は24-48歳で平均30.3歳であった。主任看護師、師長などの中間管理職は2割であった。

質問紙およびインタビューの内容から

・プログラムの参加により、全員が自身の人間の性に対する意識が肯定的に変化したと自覚した。

・事例によって程度は異なるが、倫理的な性に関する課題を抱える患者の理解や患者への支援について、参加の前後で変化が見られた。特に患者自身の問題であるという理解や、解決策はないという認識がなくなった。

・参加者は性に関するディスカッションに対する困難感が緩和していた。

などが主なカテゴリとして抽出された。なお、性に関する研究に参加の意志がある看護士であるため一般化には限界があった。

ファシリテータの視点から

「人間の性に対する認識を高める教育支

援プログラム」試行版に参加した臨床現場に勤務し、ファシリテータを担当した看護職から評価データを収集した。

看護師1名が5回ファシリテータを担当した。

インタビューの内容分析から

・参加者へ「自分が感じたこと」の言語化を促すタイミングと表現の難しさ

・看護で解決できる患者の健康上の問題という視点からのアセスメントや援助の議論を参加者に促す難しさ

・患者と看護師自身の性の健康と権利に関する参加者とファシリテータ自身の知識不足による議論の限界

・ファシリテータに関する評価の必要性の4項目がカテゴリとして抽出された。

(2) 看護職の「人間の性」に対する認識を高める教育支援プログラムの作成

「人間の性に対する認識を高める教育支援プログラム」試行版のデータを基にファシリテータの視点からの評価データを収集し、プログラムの完成版として「人間の性に対する倫理的な課題と看護 研修テキスト 臨床看護師の生涯学習編」を作成した。

試行版との相違点は下記の5項目である。

・ファシリテーションの方法の解説

意識的に議論を把握し、問いを投げかけ、意見を集約できるように説明を加えた。

簡潔に表現し、活用しやすさ、わかりやすさを目指した。

・事例Eの追加

臨床現場で起こりやすい新人看護師の悩みや戸惑いを表現する事例とした

・人間の性に関する解説の追加

看護基礎教育での学習経験の不足を補うために解説を追加した。ただし臨床での話し合いに活用できるよう簡潔に、具体的な状況と関連させて表現した。

・構成の調整

事例ごとに、事例の説明と問い(参加者への配布用) ファシリテーションの方法、事例の解説をまとめた構成になるよう調整した。看護部での研修等で閲覧しやすい形にした。

・先行研究の紹介

このテキストの作成に至った我々の先行研究での結果と考察のポイントを紹介し、内容や方法の理解が深まることを目指した。

今後はこのテキストをもとに実施し、参加者およびファシリテータの視点から、研修直後だけでなく研修数カ月後など継続的な評価を計画したい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計5件)

兼宗美幸, 筑後幸恵、性に関する倫理的課題に対する討議形式の学習による看護師の性意識の変化 討議の手引きに着目して、第33回日本看護科学学会学術集会、2013年12月7日、大阪市

兼宗美幸, 筑後幸恵、性に関する倫理的な課題に対するグループディスカッション形式の学習による看護師の性意識の変化、第32回日本看護科学学会学術集会、2012年12月1日、東京都

兼宗美幸, 筑後幸恵、臨床での性に関する倫理的な問題の学習後の看護師の認識について 学習会参加後と2年後の比較から、第38回日本保健医療社会学会学術集会、2012年05月20日、神戸市

兼宗美幸, 筑後幸恵、臨床での性に関する倫理的な問題に対する看護師の認識について看護師への面接調査より、第38回日本保健医療社会学会学術集会、2012年05月20日、神戸市

筑後幸恵, 兼宗美幸、臨床での性に関する倫理的な問題に対する看護師の認識について性に関する看護師に対する質問紙調査より、第37回日本保健医療社会学会学術集会、2011年05月21日、大阪市

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

兼宗 美幸 (KANEMUNE, Miyuki)
埼玉県立大学・保健医療福祉学部・准教授
研究者番号：50214490

(2) 研究分担者

筑後 幸恵 (CHIKUGO, Yukie)
埼玉県立大学・保健医療福祉学部・准教授
研究者番号：60310512

(3) 連携研究者

なし